

# 番組審議会議事録

開催年月日：平成 24 年 9 月 27 日(木) 16 時 00 分～17 時 00 分

開催場所：木更津市民総合福祉会館 第 2 会議室

委員の出席 委員総数 7 名

出席委員数 6 名

出席者の氏名： 早川令子（副委員長）、渡辺知尚、山口貴史、平野 満、  
磯貝弘一、村重正明

欠席委員の氏名： 藤浪陽四郎（委員長）

放送事業者側出席者： 石村比呂美、池田和隆、兼平健一

## 1. 議 題

市政情報コーナー（情報ばなな、かずさインフォメーション君津、  
かずさインフォメーション富津、袖ヶ浦タウン情報）について

（放送事業者 石村）

まず木更津市の市政情報コーナー“情報ばなな”の制作手順ですが、時間は 5 分で、いただいた原稿を局側でリライトしてから市の担当者に提出し、チェックを受けてから収録して BGM をつけ、放送するという流れになっています。

続いて、君津市の市政情報コーナー“かずさインフォメーション君津”の制作手順ですが、時間は木更津市と同じ 5 分なのですが、市からの原稿読みが全体の本数の 7 割くらい。3 割がゲストを迎えての質疑応答形式となっています。なお原稿につきましては、リライト後は局側の一任で収録をし、BGM をつけて放送する、という流れになっています。

また、袖ヶ浦市の市政情報コーナー、“袖ヶ浦タウン情報”の制作手順ですが、時間は木更津市や君津市と同じく 5 分となっています。市からの原稿読みは全体の本数の 2 割くらいで、8 割はゲストを迎えての質疑応答形式となっており、そのほかの制作方法は君津市と同じです。

最後に、富津市の市政情報コーナー、“かずさインフォメーション富津”ですが、時間は2分で、今のところ原稿読みだけで制作しているのですが、君津市や袖ヶ浦市のような質疑応答形式を試みたいという要望があり、今回は、質疑応答形式で制作したものを審議していただくことに致しました。2分間という短い時間では、質疑応答形式ですと要点が伝わりにくいので、今後、質疑応答形式で行いたいというお考えであれば、時間の延長を視野に入れていただければ、と思っております。

なお、“袖ヶ浦タウン情報”ではゲストという形で、イベントの担当者、公園の組合長、スポーツセンター（プール）の監視員、博物館の学芸員、ゆりの里の店長などにご出演いただき、“かずさインフォメーション君津”では、市役所の担当者の方にご出演いただいて、コーナーの制作しております。

（山口 委員）

昨年のある日、かずさエフエムの番組を聴いていましたら、“袖ヶ浦タウン情報”に若い女性の市職員の方が出演していたのですが、自分達から前に出て話した方が、担当者の名前も出て、近所の方もより関心をもって聴いてもらえるのではと思い、その翌日、“かずさインフォメーション君津”の担当に、袖ヶ浦市のようなやり方を参考にしてみてもどうだろうか、と話をしました。

そして、今年度から、君津市でも毎月1回、質疑応答形式で“かずさインフォメーション君津”を放送するようになり、自分としては今の形式にして良かったなと思っております。

（放送事業者 石村）

君津市では、今年度から、質疑応答形式の“かずさインフォメーション君津”を月1回制作・放送しておりますが、最近担当から「月2回、質疑応答形式のものを制作したい」とのお話もいただいております。

（村重 委員）

聴いていて、身近な情報を知ることができるのがいいなと思えました。アナウンサーが原稿をずっと読むだけよりも、担当者が自ら出演することによって、より親近感もてる感じがしたので、まさにこれが、地元根付くコミュニティエフエムとしての制作方法のやり方では、と思えました。

(放送事業者 石村)

市制情報の中には、数字や言葉として正確に伝えなければならないこともありますので、市の職員募集のように、場面によっては、アナウンサーが紹介したほうがよいものがあった場合は、お互いに協議をして、しっかりと区分していく必要があると考えております。

(平野 委員)

全般的な話として、行政からの話題を紹介する時に、担当者が出て紹介する事はいいことだと思いますが、話題を紹介する側が、聴き手の立場を考えながら分かりやすく伝える必要があるな、と思いました。

今回の場合、“かずさインフォメーション君津”は間の取り方が良くて、聴きやすく、分かりやすかったと感じました。

かずさエフエムのアナウンサーに紹介をお願いした方が良いものもあるでしょうが、面白さからいえば、質疑応答形式で担当者から直接説明してもらう方がいいので、そのあたりの区別・判断が大切になるのでは、と思いました。

(磯貝 委員)

“袖ヶ浦タウン情報”ですが、当初は出演者がなかなか見つからない、という苦労があったようですが、現在は大分周知されてきています。

袖ヶ浦市では、君津市や富津市から5泊6日をかけて、子供たちが徒歩で袖ヶ浦市を目指す冒険体験事業「ワンパククエスト」というものを毎年夏に行っているのですが、今回、参加経験のある高校生1年生が出演して「ワンパククエスト」をしてくれて、紙面では伝わりにくい体験者の生の声を伝えてくれて、実際に聴いていただいたリスナーの印象に残ったのでは、と思いました。

(渡辺 委員)

各委員の皆さんが仰るように、“かずさインフォメーション君津”は内容も分かりやすく、聴きやすいものだったと思いました。

木更津市の場合、“木更津ファイアーインフォメーション”、“ステップきさらづ”、“安心・安全メール告知 CM”がある中で、市制情報という位置付けで“情報ばなな”を放送しているわけですが、行政情報として何をどのように伝えるかと考えて聴く側の立場になった時、プロのアナウンサーが日にちや数字、内容をきちんと伝えてもらうのが基本ではないか、と考えています。

また、例えば、環境の話題のあとに福祉の話題を続ける場合、聴いている側が戸惑ってしまうことがあるかもしれませんので、取り上げる話題の選択については、市としての課題があるのでは、と思っております。イベントの情報などやわらかい話題や、行政が伝えなければならない情報の取り扱い方について、それぞれのやり方があっていいのでは、と考えています。

(放送事業者 石村)

“情報ばなな”は、FM べるの頃から放送を続けているコーナーです。しっかりと伝えていかなければならない話題については、これからも、もっと分かりやすく伝えていかなければならないと考えていますが、局側がどこまで表現をやさしくするかというのは、お互いに協議をして進めていくことができれば、と思っておりますし、イベントの話題を取り扱う場合は、できましたら市の担当者と一緒に制作できれば、と考えております。

また、棒読みのように聴こえるという点につきましては、私達の課題であると思っております。

現在、“かずさインフォメーション君津”と“袖ヶ浦タウン情報”は、それぞれ市役所のホームページ上でいつでも聴くことができるようにポッドキャストを行っていますが、今後は、木更津市や富津市でも同様のことができれば、と考えております。

(早川 副委員長)

まず最初に私が感じたのは、“情報ばなな”というコーナー名は、とてもユニークで親しみを持てるので、他の市のコーナー名も同じようにユニークなものに変更してもよいのでは、と思いました。

質疑応答形式のやり方では、自分も尋ねてみたいなという質問をアナウンサーがされると、あたかも自分が質問しているような感じがして理解しやすかったのですが、正確につたえなければならぬ話題については、アナウンサーが原稿を読んだ方がよいなど、思いました。

また、私自身、今、市の広報紙をきちんと読んでいる方は少ないのではと感じていて、このようにラジオを使って行く時間を増やしていけば、普段、市の広報紙を読まない人にも情報を伝えることができるのでは、とも思いました。

これまでは、CD で何回も繰り返し聴いていたのですが、実際には、家事をしたり、車を運転しながらラジオを聴いている方が多いと思うので、今後は、何かをやりながら1度だけ聴いて、自分の意見・感想をまとめたいと思いました。

(放送事業者 石村)

限られた時間の中でしっかりと情報を伝えたいという気持ちから、読み手も早口になってしまうこともあるので、もっと聴き手の立場になって、思いやりを持って丁寧に原稿を読まなければならない、とあらためて考えた次第です。

また今後は、イベント当日に取材を行い、参加者の声を収録して放送するコーナーを制作していくのも良いのでは、と考えております。

(放送事業者 池田)

藤浪委員長からご意見がございましたが、車を運転しながら聴いていると、つい聴きそびれてしまうことが多々ありますので、次回の放送日時について案内を入れていくようにしたいと考えております。

また、早川副委員長からもご意見がございましたが、コーナー名については、何か良いアイデアがございましたら、ぜひ検討したいと考えております。